



プリローダ
第78号
(NPO 第28号)



【ПРИРОДА】 プリローダ=ロシア語で“自然”という意味をあらわす

発行:令和8年1月1日

むさしの・多摩・ハバロフスク協会は、東京都武蔵野市で生まれた、「寒帯林保全」、「自然体験活動」、「国際交流」などを行うNPO 法人です。

緑の募金国際緑化交付金助成事業 2026植林ボランティアツアーinモンゴル 先行募集開始



2026年は、モンゴルにおける3回目の植樹活動となります。

今回は、国立モンゴル大学の方々と協力して実施をする予定です。

詳細は、別紙チラシを参照してください。

日 程: 2026年5月1日(金)～5月5日(祝・火)

募集人員: 15名(先着)

募集締切: 2026年2月15日(日)

費 用: 23万円(予定) <学割19万円>

食事付、燃油サーチャージ等別途費用あり

武蔵野プレイス主催

プレイスフェスタ2025 ~楽しむ、出会う、わかちあう~ に参加しました!

11/1(土)に、武蔵野プレイス1階ギャラリーで開かれた市民活動と縁をつなごう『市活縁日2025』に当協会が参加して12時から40分間のパフォーマンスを行いました。

2025年度から役員になった松原伶雄新理事が、協会の概要・ロシアの近況・2026植林ボランティアツアーについて発表を行いました。

当日は親子連れや高校生・高齢者の方々が集まってくれたり、普段お目にかかることのない年齢層の方々にも当協会の活動をアピールすることが出来ました。



《上高地アルプス山荘 共催》

＜設立30周年と秋山智英初代会長を偲ぶ会 開催＞



当協会設立30周年のプレ行事と上高地アルプス山荘30周年の記念行事を兼ねた初代秋山会長を偲ぶ会が、15名の参加者をむかえて上高地にて実施されました。上高地は秋山智英氏が林野庁長官時代から所縁の場所。公益社団法人日本山岳ガイド協会理事長である武川理事の計らいで、同協会の研修施設である上高地アルプス山荘を宿泊場所として利用しました。松本駅からジャンボタクシー。環境保護のためマイカーの乗り入れは禁止され、途中の沢渡でバスに乗り換えねばなりません。そこでプチ渋滞後、バスの発着場に到着。発着場から梓川に向かって少し入った場所にアルプス山荘が建ちます。

小休止の後、偲ぶ会へ。山本副理事長の司会で主催者挨拶に続き、来賓5名（一般社団法人緑の循環認証会議事務局長・専務理事/梶谷辰哉様、環境省中部山岳国立公園管理事務所所長/野川裕史様、林野庁中部森林管理局中信森林管理署次長/開藤秀昭様、上高地町内会会長/小林清二様、上高地観光旅館組合組合長/青柳浩一郎様）の方から祝辞を頂戴した後、安藤理事長から会の歴史を紹



プリローダ 第78号

発行日 令和8年1月1日

住所 東京都武藏野市吉祥寺東町1-15-25

E-mail mail@mtxa.org

発行人 安藤 栄美

広報委員 山本誠一郎、木崎 剛、落合 恒、内田 彰、内田 央、内田 周、佐藤 巧、松原 伶雄

印 刷 巧芸印刷株式会社

発行 NPO法人むさしの・多摩・ハバロフスク協会

TEL/FAX 0422-23-5351

U R L <https://mtxa.org/>

編集 田崎 桂子

＜編集後記＞

2026年は、モンゴルにおける植林ボランティアツアーが早くも3回目を迎えます。

今回は緑の募金国際緑化交付金助成公募事業に応募して合格することが出来ました。

より充実した内容を企画して、頑張ってまいります！

介。故秋山会長の功績などにも触れられました。献杯の後、来賓も交え参加者で歓談。懇親を深めました。

散会後、夕食までの時間をを利用して梓川を下り、田代池を散策。曇ってはいるものの、穂高連峰の山並みを遠くながめます。田代池は、かつての面影を失い、田代湿原とでも呼ぶ方が相応しい感じでした。



プラタモリで紹介された、上高地の自然や、地形等、時々刻々と変化しているのを感じます。2日目は、河童橋を渡って梓川右岸を散策。明神池を目指します。途中、岳沢湿原の静寂に触れつつ歩きます。現在の大正池の50年前の姿なのだそうです（武川ガイド）。透きとおった水で、イワナの姿もちらほら見受けられ、ゴミが落ちていないことも印象に残りました。あたり一帯は保健保安林と呼ばれる国有林で、20種くらいの樹種からなる豊かな森で、木を植えることの大切さを教えてくれます。大雨による土石流の跡も見られ、倒木更新の様子も観察できます。樹木はすぐに大きく育って、景観を変えるとも話されていました。

ロシアにおける植林事業や緑の少年団国際交流事業でお世話になった梶谷辰哉さんからは、森林浴の効用のお話を伺いました。明神池からは左岸遊歩道を下って河童橋へ。観光地の賑わいです。



再びジャンボタクシーで松本に戻り、解散しました。両日とも好天に恵まれ、聖地を堪能することができました。

（内田 彰）